



卒業アルバムより

4組担任 田中 菊男先生の思い出



筆者：近影



卒業アルバムより

丸山 暢久

- 私の担任は田中菊男先生ですが、入学して野球部に入る事が最優先だった私が、当時の部長に入部を申し込み了承された翌日の午後に田中先生から呼ばれ、「お前は家が遠いから野球部は止めておけ」と言われ、入学間もない頃で右も左も分からない時期だったので不承不承、入部を断念。依って田中先生には特段の思い出は無い。
- 私は今でも或る人達から「ちょうきゅう」と呼ばれることがある。音読みではその通り。それを最初に呼ばれたのは国語の時間に荒木豊治先生から点呼? の時に呼ばれたのが初めてだった。それが今でも尾を引いているのかな?
- 私が一番、今でも心に残っている言葉がある。清水次郎校長が(何の場面か失念)講堂での訓話の中で「**一隅を照らす**」という言葉の話がされた。就職して何年か経つ頃、ふとその言葉を思い出し、常に心に留め置き、末端や厳しい環境でも努力している人々に何らかの助力や配慮を心掛けてきた。今後も続けたい。



筆者：近影



卒業アルバムより

成澤 文和

- 田中菊男先生は温厚そうな顔をして海軍兵学校卒とは思えなかった。当時の海軍兵学校と旧制一高の難易度は同等だったそうだ。広島に原爆が投下された8月6日、江田島で授業中、衝撃で机が飛ばされたそうである。それ以外、戦争の話は無かった。
- 私は理系科目のうち特に数学が苦手であり、宿題をやってこないで、よく先生に怒られたものである。思い出に残る田中先生語録として、当時の上田高校は授業日数日本一なので、ここでしっかりと勉強すれば何も心配ないと。
- 当時の上田高校の先生方は自信を持って授業の臨んでおり、それが進学率の高さに繋がっていたと思う。